

|       |          |         |         |      |     |
|-------|----------|---------|---------|------|-----|
| 科目名   | 異文化ゼミナール | 科目コード   | 1152    | 単位数  | 2   |
| 担当者名  | 堂徳 将人    | 開講セメスター | 第2セメスター | 開講年次 | 1年次 |
| 授業の方法 | 演習       | 実務経験    | 無       |      |     |

#### ●授業のねらい

「18歳市民力」（シティズンシップ）の涵養に向けて、①現代は世界的にはグローバルや技術革新、国内では少子高齢や東京（札幌）など大都市への人口集中などが進行し、激変する社会の状況を呈していることを踏まえ、自己の在り方生き方を考察する。こうした中で既存の教育システムでは、「なぜ、学ぶのか」という根本的な問いへの回答が、学校・家庭・社会（企業等）において困難になっており、先哲の知恵や世界各国の教育改革の動向を参考にして、学ぶことの意義、学びの必要性を考察し、生涯学習者としての意欲を培うことをねらいとする。

#### ●到達目標

激動する社会の状況を知り、現代の社会における諸課題を考察し、自己の在り方生き方について判断し、適切に表現することができる。また、なぜ学ぶことが重要なのかについて、先哲の思考や世界各国の教育改革などの幅広い知識をもとに考察し、学びの意義や役割について自ら判断し表現することを通して、大学での学びを深め、生涯学習時代に豊かに学び続けようとする実践的な意欲と態度を育むことができるようになる。

#### ●授業内容

- 1週目 プロローグ「衝撃AIが人類最強棋士を超えた」「シンギュラリティは近い」（ゼミガイダンス・説明・学びの地図づくり）
- 2週目 「18歳市民力」（シティズンシップ）はなぜ必要か  
「激変する社会における学びの意義」知識は陳腐化する（研究協議）
- 3週目 「なんのために学ぶのか」大学での学びを考える～勉強が好きじゃなくてもいい～おもしろいことがあるか～（調査・発表・質疑応答）
- 4週目 「少子高齢と人口一極集中の課題」地方創生の可能性から学びを考察する  
18歳市民力は地域の未来を創る
- 5週目 「18歳市民力とSDGs」市民性・社会性と人類の課題解決との関わりを考察する（質疑応答）
- 6週目 「戦争と平和を考える」広島・長崎、平和はいかにもたらされるかを考察する（質疑応答）
- 7週目 「18歳市民力」（シティズンシップ）の自己評価、大学において身に付けたい資質と能力を考える
- 8週目 なぜ、学ぶのか「社会が求める学力と学校が求める学力の乖離」異文化交流において日本人の新人社員が抱いた違和感（調査・発表・質疑応答）
- 9週目 「OECDキーコンピテンシー、アメリカ21世紀型学力」諸外国が培う学力の本質を考える（質疑応答）
- 10週目 「日本の教育改革の現状と課題」NO.1 高大接続の一体的な改革は学校教育を変革するか（調査・発表・質疑応答）
- 11週目 「日本の教育改革の現状と課題」NO.2 「社会に開かれた教育課程」は学校と家庭、地域社会での教育を変えるか（調査・発表・質疑応答）
- 12週目 「ソクラテスの無知の知から現代の学びを考える～アクティブ・ラーニングは問いによって成り立つ～」（質疑応答）
- 13週目 「言語資本と文化再生産を考える」ブルデューのハビトゥスと教育格差を考察する（調査・発表・質疑）
- 14週目 「生涯学習の率先垂範者となりゆくことの意義を考える」（調査・発表・質疑応答）
- 15週目 「学びの自分史」自身の学びの過去、現在、未来を考える（発表・質疑応答）
- 16週目 激変する社会における「18歳市民力」と「なぜ、学ぶのか」を自身の在り方生き方として再考察する

#### ●準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習では、指定するテキストおよび参考図書を読書すること。また、年鑑・白書・各種統計や新聞記事などの資料を使用して、調査・発表の準備をすること（毎時間2時間）。復習では、調査・発表・質疑応答などで生じた新たな課題解決に向けて学習を深めるとともに、毎回配付する課題プリント等に取り組むこと（毎時間1時間程度）。

#### ●成績評価の方法・基準

評価は客観テスト（30%）、毎時間の調査・発表・質疑応答（50%）、課題レポート（20%）により行う。なお、調査・発表・質疑応答では毎時間の授業で配付する自己評価表と相互評価表を使用する。

#### ●履修上の留意点

毎時間の出席はもとより、調査・発表ではプレゼンテーションの技能を高めるよう取り組む。また、質疑応答では積極的な発言に努めること。また、資料の配付やフィードバックなどは、coursepowerに掲示する。

#### ●課題に対するフィードバックの方法

調査・発表・質疑応答では、毎時間作成する相互評価表と自己評価表を活用して自身の学習内容を確認する。また、課題レポートにはコメントを付けてフィードバックするとともにテストは解答とコメントによるフィードバックを行う。フィードバックの一部はcoursepowerを活用する。

#### ●テキスト

池上彰『なんのために学ぶのか』SB新書

#### ●参考書

田中智編著『グローバルな学びへ』東信堂  
ガート・ピースタ著『民主主義を学習する』勁草書房  
堂徳将人編著『社会に開かれた教育課程を実現する高校』学事出版

#### ●更新日付

2022/01/27 04:53